

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2772500761		
法人名	利楽心株式会社		
事業所名	グループホーム自由時館		
所在地	大阪府池田市鉢塚2-5-29		
自己評価作成日	令和5年10月11日	評価結果市町村受理日	令和5年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年11月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自由時館は1フロア8名と小人数での共同生活です。各入居者様の介護度に応じ援助方法を家族様に、理解してもらい、満足を与えるように努力しています。スタッフ間の介護方法を統一し入所者様の不安、混乱を排除し平穏な日々を送れるよう心掛けています。地域行事、散歩、買い物、洗濯、食事づくり家庭的な雰囲気特徴です、又中学生の福祉体験などにも協力しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業主体「利楽心株式会社」は、1994年にデイサービスをボランティアで始め、池田市を中心に訪問介護・有料老人ホーム・保育園などを運営しており、地域に根差した福祉企業である。当事業所は、幹線道路を少し入った閑静な住宅街に、木造2階建ての2階に1ユニットで2004年開設された。利用者の半数が要介護5、他半数は要介護2・3・4と様々だが、一人ひとりに合わせて声掛けに工夫を凝らし、毎月の職員会議で話し合い、状態変化にいち早く気付き、利用者は穏やかに過ごすことができている。感染症対策も万全でクラスターの発生は無く、職員の努力は計り知れない。漸くのコロナ禍から日常を取り戻しつつあり、市主催のフェスティバル、ふれあいサロン、地域の祭りなど、利用者が地域と関わりながら今まで通りの生活が継続できるよう、職員一丸となり懸命に努力している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の話し合いにより「みんなのためにあなたがいる。あなたのためにみんながいる。」というホーム独自の理念を共有している。	左記の事業所理念をリビングに掲示し、利用者・家族には入居時に説明している。日常ケアを振り返り、他の職員と協力して行うことを心掛け、職員会議で話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し月一度のふれあいサロン町内会の季節のイベントに参加している。	町内会に入会し、町内会長から地域の情報を得ている。コロナ禍により中断していた公民館でのふれあいサロンや地域の祭り見学、市主催の植物由来のフェスティバルにも出掛けている。また近隣中学生は福祉体験として、利用者の話し相手や絵本の朗読などを行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト養成講座受講済みの職員がおり、地域に向けての勉強会も行っている。地域中学生の福祉体験を受け入れている。今年度から受け入れる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を行い、当ホームの状況・意見を交換しているが、コロナの関係で実施が出来ていないので、報告書等で情報提供をお願いしている。	会議は年6回書面で行っていたが、11月は利用者後見人・地域包括支援センター職員・町内会長・管理者が参加し、運営状況・事故報告を行い、町内会長からは地域のイベント情報を得ている。議事録はメンバーと家族全員に送付し、市介護保険課には持参している。	議事録は簡素な報告内容にとどまっている。久々の対面開催であり、双方の意見交換や利用者のイベント参加状況、事故・ヒヤリハット、職員研修など具体的で分かり易い議事録を作成し、運営への理解を深め、サービス向上に役立つ会議となることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を行い、当ホームの状況を毎回報告している。アドバイスをいただいたり相談等も行い質の向上に取り組んでいる。	市介護保険課には運営推進会議の議事録を持参し、事業所運営への理解を得ている。分からないことを聞いたり、アドバイスをもらったりしている。感染症対策、認知症、心と身体の健康管理、権利擁護などに関する市主催の研修に参加している。12月から介護相談員の訪問が再開予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	無意識にかきむしるため手袋を一名の方がつけています。定期的にカンファレンスを行い必要があるか検討している。	身体拘束適正化の指針を作成し、委員会を3か月毎に開催し、研修は年2回行っている。現在、引っ掻き防止の手袋を使用している利用者があり、2週間毎にカンファレンスを行い経過観察している。安全のため家族の了承を得て、2階階段降り口の扉は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、職員にも社内研修をおこなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、職員にも社内研修をおこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと時間を取っていただき、契約を行っている。不明な点などは、理解、納得がいくまで説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族とコミュニケーションを図り、意見や不満を言っていただく。毎月、家族様に出す手紙にも要望があれば教えてほしいと書いている。発言がしにくい場合もあるため意見箱を設置している。月に一度の派遣相談員の訪問もあるが、今は中止している。	重度の利用者は居室で過ごすことが多く、入室の際は必ず声を掛ける。101歳の利用者は「おやつが欲しい」と言い、職員は出来る限り要望を叶えている。家族には毎月個別便りを送付し、写真も数か月分まとめて送り、電話連絡時には意見・要望を聞くようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングなどで、職員の意見や提案を聞き、業務に反映している。	職員が意見を述べる機会は、毎月の職員会議・カンファレンス開催時がある。食事形態について、ミキサー食の味付けが薄くなることを話し合い、専門業者に委託することを提案して、従来よりしっかりした味付けになり、利用者の食欲が増した経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	お互いが刺激しあい、向上心を持って働けるような環境を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特定の職員だけではなく色々な職員に研修を受ける機会を作りたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月ごとに池田市のグループホームの管理者、ケアマネージャー、リーダーが集まり意見交換や困難事例の検討会をおこなっているが最終ワクチン接種後より再開予定。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	じっくりと時間を作り、本人が安心出来るような信頼関係が築けるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望に沿えるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族、職員が話し合いながら、御本人にとって何が一番必要なのかを話し合う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人、御家族、職員という関係ではあるが、家族同様お互いが支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も家族のようにご本人を支え、御家族が気軽に訪問していただける環境作りを心がけ、ご家族様にも協力していただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加する事や、入所前からのお付き合いをできる限り支援している。	利用者の生き立ち・生活歴全般の把握は、入居時のフェースシートにより行っている。面会制限は無くなったが、家族以外の訪問は無い。職員は時間が許す限り車で利用者の生家に出掛けたり、馴染みの美容室を探しに出掛けるなど支援している。携帯電話を使用している利用者は1名居る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りコミュニケーションの橋渡しを行っている。又、一緒に外出をし楽しみの共有を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族と連携を取り、御本人に面会に行く関係が続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の思いや暮らし方の希望を聞き取りご意向に添うように努力している。	利用者の思いや意向の把握は、声掛けに工夫を凝らし、ゆっくりと時間を掛けて行うようにしている。散歩を面倒に思う利用者には、直接的で無くさりげない言葉掛けとその時の表情を見て出掛けけるようにしている。意向に沿って、車で買い物に出掛けたり、花への水やりやゲームを楽しむ利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、御本人とご家族様から情報収集を行い、入所後も話しやすい状況を作り時間をかけて情報を把握出来るように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方を記録して心身状態、出来る事をアセスメントし把握できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成はご本人、ご家族、主治医、居室担当、管理者が話し合い介護計画を作成している。ご本人とご家族の意向を良くお聞きしモニタリングをするように努めている。	利用者・家族の要望を基に、介護記録・申し送りノートや医師の意見を参考に、職員会議で話し合い介護計画を作成している。今年度から介護記録の様式を変更し、短期目標の達成・未達成の理由欄を設け、現状に即したより良い計画となるようにしている。家族には計画作成担当が説明し、再度要望も聞き、サービス担当者会議で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に作成した介護記録で体調やケアの実践の状況の情報を共有し、状況に応じて介護計画書を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院が必要な方の送迎、付き添いなども行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民会館の催事、地域の行事への参加を積極的に行えるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	在宅医療の訪問診療を利用している。ご家族様の信頼を得る為、必要に応じご家族と主治医との面談も行っている。	利用者・家族の同意を得て、全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、内科は月2回、歯科・歯科衛生士は月1回の訪問診療を受け、皮膚科の訪問診療を月1回受けている人も1名居る。医師が月1回サマリーを家族に送付し状況を知らせている。職員と訪問看護師がパッド交換時にストレッチを行って、身体の硬直を予防している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の訪問診療の医師や看護師と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の医師、看護師、相談員との連携をとり情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に話し合いの場を持っている。状態の変化にあったケアを行う為に必要に応じ医師も交えてご家族と話し合い、方針を共有している。	入居時に「重度化及び看取りに関する指針」を利用者・家族に説明し、緊急対応・看取り介護・終末ケアの同意書と「看取りについての事前確認書」(延命処置含む)を得ている。重度化時の職員対応法の文書を作成し、医師・訪問看護師が研修を行っている。毎年2名程を看取り、現在4名が4～5年間看取り態勢にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や定例会議において緊急時の手順や事故発生時の対応について徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	池田市の消防署の協力のもと火災訓練を行ったり、ホーム独自で総合訓練と部分訓練を各一回行っている。	夜間想定も含めて年2回避難訓練を実施し、動ける利用者も参加している。近隣住民に有事の協力を呼び掛けており、夜間でも1階(障がい者グループホーム)職員3～4名と近在の職員6～7名が直ぐに駆け付けられる。水・食料など約2日分を備蓄し、系列施設や本部の備蓄品も利用できる。BCP(事業継続計画書)も作成している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということ意識している。	プライバシー保護・接遇のマニュアルを作成し、会議などで話し合っている。排泄中は基本的に外で待つ、声掛け・ノックして入室する、入浴時に陰部は利用者に洗ってもらう、馴れ馴れしい言葉や否定語は遣わない、などに留意している。不適切な対応があれば、管理者や職員同士が注意して正している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択出来るように声掛けには工夫をするように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースにあわせているが、職員の人数の問題もあり、入浴時間等は限られた時間になる事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望で毛染めやメイク、ネイルなど出来るように支援したり、洋服も一緒に買い物に行ったりと相談に応じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、片付けをその人の能力に合わせて一緒に行っている。	調理専門職員2名が献立・食材買い出し・調理を行い、利用者の好みで少し甘めに調理している。月1回イベント食を用意し、栗ご飯・素麺・ちらし寿司などで季節を感じている。誕生日には好きな物を提供し、ピザやハンバーグを取り寄せることもある。重度の利用者用のミキサー食・トロミ食は、味の良い業者から取り寄せている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	コーヒータイムやおやつ時間を設けることにより、栄養バランス、水分摂取を確保している。又水分量、食事が分かるように記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の状態に合わせてマウススポンジ、マウスウォッシュ、歯磨きテッシュ等を使用し口腔ケアを行っている。ご自分で出来ないかたは、職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で個々のパターンを把握しトイレ誘導の時間を工夫してオムツの使用を減らし布パンツに出来るようにしている。	半数の寝たきりの利用者はおむつを使用し、日中は3時間毎にパッドを交換し、本人からの声掛けや職員の声掛けで交換することもある。1名はトイレで排泄し、3名はポータブルトイレを使用している。夜間は3時間毎に見回り、パッド交換やポータブルトイレの確認をしている。1日1回おしり洗浄液を使って清潔を保っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分補給を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の人数の都合である程度の時間制限はあるが利用者様の様子に合わせて時間をずらす等の工夫はしている。好みの入浴剤などで楽しんでいただいている。	週2回午前中の中の入浴を基本とし、嫌がる利用者は、間を置いたり声掛けを工夫して入浴している。重度の人はシャワー浴・足浴・清拭を行って清潔を保っている。1人ずつ湯を替え、菖蒲湯・柚子湯で季節を味わい、入浴剤を楽しみ、好みのシャンプーや化粧水・乳液・保湿剤を使って体を保全している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせてお昼寝きおなどして過ごして頂く。居室の温湿度を調整し安眠につながるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報のファイルがありいつでも確認が出来るようにしている。変更や追加時は申し送りの徹底をしている。又薬局と連携して薬のセットや在庫管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人にあった趣味や好みを理解し生活の中に取り入れる事により楽しみながら生活が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望時、買い物や外出の支援に努めている。	寝たきりの利用者は外出が難しいが、動ける利用者4名は、周辺散歩・買い物や植物への水やりでほぼ毎日外に出ている。車椅子で、初詣やとんど焼き・菖蒲祭り・鯉のぼり・秋祭りの観覧に出掛け、車で買い物に出掛けることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からのお小遣いをご自分で管理され、買い物時ご自分でお支払いされる方もいました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時には電話をかけたり手紙を出したりすることの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を避ける為大幅な配置変更はしない。温度管理にも配慮する。	居間兼食堂は一家団らんを感じさせる広さで、調理の音や匂いが漂っている。3人掛けソファは、利用者が横になって寛ぐ場となっている。壁面や廊下には雪ダルマと子どものタペストリー、クリスマスモール、リスと紅葉などの季節作品を飾っている。天窗の下に薄い布を吊って、眩しい陽の光を和らげている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースの問題もあり居室以外では一人になれる場所はないが、ソファの座る位置などお気に入りの場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の家具や家族の写真を飾る等、好みのものを居室に置いて生活してもらえるように配慮している。	居室には、エアマット付き電動ベッドやクローゼット・エアコン・カーテンを設置している。利用者はタンス・衣装ケース・テーブル・椅子・家族写真などを自由に持ち込み、居心地良い空間を創っている。換気扇を終日稼働、温湿度計と加湿器を置き、冬は電気アンカーやレッグウォーマーを使用して快適に過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手伝いすぎないように職員同士が声を掛け合いながら、本人の出来る事が多く引き出せるようにしている。		